

特集：静岡サレジオ公開研究会



「幼稚園園庭にて」

「小さな天国を作る仕事」

園長 国吉 健二

今、全国各地で幼稚園や保育園の園庭の芝生化が進められています。芝生は地面の温度上昇を抑え、ヒートアイランド現象を防ぎます。砂埃が立たないため近隣に迷惑をかけることはありません。転んでも怪我をすることがないため子どもたちは安心して遊べます。

静岡サレジオ幼稚園の園庭の芝生はティフトン芝(Tifton Turf)という夏期限定の西洋芝で、日本平スタジアムと同じスポーツ仕様の芝生です。この芝生は暑さには強いのですが、冬になると茶色になるため秋にペレニアル・ライグラス(Perennial Ryegrass)という寒冷地限定の冬芝の種を蒔きます。この二毛作によって、一年中、園庭を緑に保つことができます。

幼稚園の子どもたちは転んでも痛くないし、昆虫や鳥類が沢山やってくるので芝生の園庭が

大好きです。

春はモンシロチョウやテントウムシ、夏はシオカラトンボやトノサマバッタ、秋はアキアカネやコオロギ、冬はキジバトやセグロセキレイがやってきます。小春日和の日には園庭でお弁当を食べることもあります。

私は「保育の仕事は天国を作る仕事だ。」と考えています。私たちが小さな天国を作って、そこで小さな子どもが、ひととき「ああ、この世界はいい世界だ。自分は愛されているのだ。辛いこともあるけれど、楽しいことも一杯あるのだ。」そう感じて人生を始められたら、これに勝る奉仕はないと思います。

そもそも、天国を作っているのは神様なので、私たちが小さな天国を作る努力をすれば、それは全部神様の仕事です。安心して、挫けることなく、保育の仕事に誇りを持ってやっていきたいと思っています。

静岡サレジオ公開研究会

子ども達の関わりを学習の深まりにつなげるには、どのような工夫が必要なのでしょう。平成24年10月13日に行われた本研究会では、「人との関わりの中で習得する授業とは～InputからOutputへ 児童の能動的な活動を通して～」をテーマとし、国語・英語・算数の3教科に中学1年生の数学を含めた18クラスの公開授業、3クラスの研究授業、講演会、分科会と4つのプログラムを設けました。全国各地の公立私立教員のみならず、本校保護者の方々にも参加を呼び掛け、ともに「教育」について考える場としました。

3教科それぞれに講師の先生を招き、研究を深めましたが、英語の研究授業と講演会の様子をここに報告します。



1. 研究授業 【英語 ～CLIL（内容言語統合学習）を基本にした授業～】

昨年度の研究会の際に上智大学の和泉伸一先生からCLILの授業提案をして頂いたことをきっかけに、それ以来、英語・国際の授業をCLIL（英語を覚えることだけに目標を定めるのではなく、言語習得以外の目標に向かう過程で必要な英語を用い、習得を図ること）を基に考えてきました。

そこで今回、CLILの具体的な提案として6年生での「英語ディベート」を行いました。自分の考えを相手に理解してもらい、受け入れてもらうためには、根拠を示し順序良く説明する論理的思考力が必要です。さらに、相手の意見の根拠が弱い点やつじつまが合わない点を見つけて指摘するための批判的思考力や、今回のように英語で行う場合には、相手の意見を聞いたり自分の考えを伝えたりするための英語力を含めたコミュニケーション力が必要です。

子どもたちは、ディベートのテーマ「Which do you like to live in Hokkaido or Okinawa?」についてUseful expressions（英語表現定型句）を使いながら自らの意見を述べていきました。北海道のよさを伝えるグループは、「Hokkaido is cooler than Okinawa. There is much nature in Hokkaido.」と北海道の自然の豊かさなどをもとに自分たちの考えを主張し、反論の場面では、沖縄の基地問題を取り上げ、「Osprey is in Okinawa. Osprey crash has caused many times in the past. And, there is also a U.S. base in Okinawa.」とオスプレイの危険性を指摘しました。そこで使われた英語は、ディベートで相手に勝つために子ども達自身から



自発的に表現されたものです。

CLILのよさは、ここにあります。教師から教えられたことだけを身につけるのではなく、表現したいという能動的な気持ちから何を学ぶか考え、教師や仲間と共に学びを深めることができます。さらに、常に活用を伴っているがゆえに、関わりながらさらなる習得を図ることができます。これが今回のCLILの実践から研究の成果として明確にされたことです。

今後、ミドルステージ（小5から中2）での国語・英語ディベート力の育成を目標に、CLILを英語学習の一つの方法として取り入れ、児童・生徒の力を伸ばしていきます。

2. 講演会 【関わりの中で学び育つ子】上智大学総合人間科学部 奈須正裕 教授

「子どもは、本来、自分の既有知識や経験との関わりの中で学ぼうとしている」この奈須先生の言葉に私達教員は、どきっとさせられました。研究テーマ「人との関わりの中で習得する授業とは」は、本来の子どもの姿を追って来なかったことへの反省から生まれたテーマだったのかもしれませんが、奈須先生のご講演の中には、生活の中で純粹に問いを抱き、それを友達と共に解決しようとする本来の子どもの姿がありました。

——「たぬきのじてんしゃ」——

「この絵にはないけどね。本当は『しゃりん』が付いているの。絵を描いた人が描き忘れちゃったのかなあ。困るなあ、もう」

「どうしてあなたは、絵にはなくても本当は小さい『しゃりん』があるんだって思うの？」

「だってね。『たぬきのこどもは、ながいあいだのゆめがかなって、あかいじてんしゃをかってもらいました』って書いてあるでしょ。そうやって子どもが買ってもらった初めての自転車にはね、必ず『しゃりん』が付いているんだよ」

「でもね、私の自転車には、今はもう『しゃりん』は付いていないけどね」

—奈須先生の講演より抜粋



これは、国語の授業の中での小学1年生の子どもと教師との関わりの一場面です。子どもの素直な言葉に思わず笑みがこぼれてしまうのですが、これを受けた教師の仕事とは何でしょうか。それは、子どもの事実を価値ある学びに結び付けることです。教科内容を分かりやすく教えることが大切なことは言うまでもありませんが、子どもの姿が見え、見えた姿と結びついている「活用」の効いた知識を教えることこそが求められている教師の仕事なのではないでしょうか。

信仰のふるさとをめぐる旅

—普通科2年 九州研修旅行—
11月13日(火)～16日(金)

普通科2年生の九州研修旅行は、今年も長崎市内・五島列島・福岡をめぐる旅となりました。天候に左右され行程を大幅に変更しつつも、生徒全員が時間厳守を実践、訪問する各地でマナーの良さと真剣な研修態度を褒めていただけるような素晴らしい旅行ができました。

原爆資料館での平和学習では語り部の方のお話を聞かせていただきましたが、その想像を絶する残酷さ・惨さに一同言葉を失いました。つらい経験をこうして私たちに語って下さる言葉には、何にも代えがたい平和への願いが込められている、そう思うと身が引き締まる思いがしました。伺ったお話は決して忘れません。そして未来に必ず語り継ぎたいと思います。

最終日の太宰府天満宮では、進路達成をみんなで祈願し、それぞれにお守りを買ったりおみくじを引いたりして、明るい将来へ夢と期待を膨らませました。



生徒の感想

・いちばん印象的だったのは二十六聖人殉教地。街中なのに不思議なほど静かな広場に、二十六聖人の大きなレリーフが、厳かなたたずまいを見せていました。言いようのない圧倒的な強さを感じさせられました。(T.M)

・長崎市内の班別研修は有意義でした。たくさん見所がある中で僕がお勧めしたいと思う名所は孔子廟のある中国歴代資料館とカステラの老舗F屋です。長崎ならではの旅の味わいが満喫できました。(T.I)

・五島列島がよかったです。おいしい五島うどん、透きとおった海、小さくて手入りの行き届いた教会では今も島の方々が祈りを捧げていました。お見送りもしていただき、心が温かくなるすてきな旅になりました。(M.M)

いまこそ『平和』を問う

—クリスマスセレモニー—
朗読劇「おじいちゃんの命日」

12月19日(水)中高合同のクリスマスセレモニーがマリアンホールで行われました。今年のテーマは『平和を祈るクリスマス』。内戦の続く中東の国から寄せられた子供たちの声や、ネットいじめに巻き込まれ、生きる希望を見失った高校生の手記を紹介、『平和』とは何かをあらためて考え、見つめなおしました。

今年は、太平洋戦争中実際に静岡で起きた出来事を題材としたオリジナル朗読劇「おじいちゃんの命日」を上演。市内に墜落したアメリカのB29爆撃機と瀕死の重傷を負った敵国の兵士に、人々が示した様々な反応を、中高生の有志がマイクを通して熱演しました。憎しみをぶつける人、無関心を装おうとする人、そんな中「同じ人として」手を差し伸べようとする主人公は「非国民」と非難されてしまい…。物語は祖父の命日に初めて語られる、若き日の祖父の心の葛藤を通して、孫娘に『平和』の尊さと、人としての心の在り方、あるべき姿を訴えかけます。それぞれの役になりきった有志たちは、時に激しく時に穏やかに、今と昔を自在に往来しながら、朗読劇の世界へと会場を引き込みました。生徒たちも、遠いものと思っていた『戦争』を、よりリアルに、自分たちの身近な歴史として考えられるようになったようです。

続いて、高校1年生の全体合唱や吹奏楽部、音楽部、ダンス部のパフォーマンス、毎年恒例のサンタ先生からのプレゼントと、お楽しみのプログラムで締めくくり。今年のクリスマスセレモニーは、例年に増して意義深いものとなりました。



高等学校

先輩たちの意気に感じて、全校一丸！

白熱の真剣勝負 — 体育祭 —

10月19日(水)。今年の体育祭も、熱い勝負がグラウンドいっぱいにはやり広げられました。本校の体育祭では、中高各学年ごと3チームに分かれ、高1・中1は青組、高2・中2は赤組、高3・中3は緑組として、入学から卒業まで3回の体育祭を同じ仲間と共に戦います。これまで優勝経験のない緑組の高3生は、この体育祭が栄冠を勝ち取る最後のチャンス。第一種目からどんどん点を伸ばして、勝利を引き寄せて行きました。

後輩たちが追い上げを見せたのは昼一番の「応援合戦」。替え唄やショートコント、そして圧巻の集団演技で緑組に迫る見事なパフォーマンスを見せて、場内を盛り上げました。

結果はやはり緑組の優勝となりましたが、どの学年も素晴らしい団結を見せ、お互いの気迫に満ちた戦いぶりに全校一丸、意気に燃えた体育祭は、熱い思い出の1ページとして胸に刻まれました。

第13回しずおか市町対抗駅伝

10区を激走 **34HR** 堀 健太君
6位でたすきをつなぐ

選りすぐりのランナー達が静岡市全域を駆け抜ける「しずおか市町対抗駅伝」。12月7日(土)のレースに本校陸上同好会に在籍する堀健太選手が静岡市清水チーム第10走者として力走し、雄姿を披露しました。学校初の快挙に大きな拍手を送ります。



◆陸上同好会・鈴木かおり先生より◆

去年は補欠だったこの大会を前に、堀君は受験勉強と練習を両立させる選択をしました。夏休みも日中は勉強、夕方からは同好会の練習、他にもライバル校の合宿に単独で参加し、学校が始まってからは登校時南幹線を走って、5000メートルの自己ベストを20秒更新。3回の選考会を経て念願の正選手に選ばれました。小さな体で一步一步ジャンプをするような独特の走りは大変魅力的で、今後の練習次第でさらなる飛躍が期待されます。

●モザイク画が額装されました●

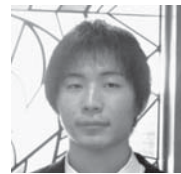
1号館2階メモリアルルームの前に飾られていた2007年度生徒会制作のモザイク画「フィリピン・ストリートチルドレンの笑顔」が本校保護者様の篤志により額装されました。サレジオ生のボランティアスピリット「豊かさの分かち合い」の象徴として、これからも大切に受け継いでいきたいと思ひます。

栄光の記録 高3生の進路報告

3A 村瀬 勝裕くん

上智大学理工学部へ進学

僕はフィリピンボランティアをきっかけに国際支援に関心を持ち始め、カンボジアの地雷原で手足を失った子どもたちの助けになればいいと考えようになりました。進学する物質生命理工学科では人工骨の研究・開発に関わりたいです。夢に向かってがんばります。



3B 鈴木 美咲さん

順天堂大学保健看護学部へ進学

大学で「母性看護」や「心理学」などの専門の講義を受講できるのが楽しみです。そして実習も、精一杯がんばっていろいろなものを吸収したいと思ひます。弱音を吐いた日々、励まして下さったたくさんの先生方に、感謝しています。ありがとうございます。



31 黒田 樹くん

上智大学法学部へ進学

行政書士である父に影響を受け、自分も社会と暮らしの根幹を守る法律を学んで人の役に立てたらと法学部を選びました。上智大学独自のシステムで、高校時代一番得意だった語学の勉強にも引き続き身を入れていきます。



31 佐山 音緒さん

静岡県立大学食品栄養科学部へ進学

私は将来、食品開発の仕事に就き旨み成分の研究をしたいです。大学での実験や研究は、どんなものか、わくわくしています。茶カテキンの研究で実績のある県大は私の夢への大きな一歩。お世話になった先生方、ありがとうございます。



31 久 洋平くん

関西学院大学法学部へ進学

一人ひとりの小さな力を集めれば国の法律も変えられる、そんな感動を高2の時リーダーとして参加した、動物愛護法改正のための署名活動「シンビオシス」を通じて味わいました。法律の問題点を市民の力で変えていく、そんな活動の核になることが僕の目標です。



3年生 研修旅行

中学3年生は、11月13日から16日に京都奈良を中心とした関西方面への研修旅行に行ってきました。東大寺や金閣寺等の仏閣巡りはもちろん、春日大社での献灯体験や妙心寺での抹茶体験、京都大学見学、教会訪問等、研修旅行ならではの体験も多く、盛りだくさんの3泊4日でした。また京都市内やUSJでの班別研修では、互いによく協力し合い、友達との絆を深めることができました。日本の歴史や文化を学ぶとともに、精神的にも一回り成長できた、有意義な旅でした。

《3A 松岡実可子さんの感想》

研修旅行を通して改めて感じたのは、「感謝の気持ち」でした。普段の生活でも色々な方にお世話になっていますが、こういう時こそ、そういったことに気づかされやすく、改めて「感謝したい」と思いました。1日目から4日目まで、誰か一人が欠けてしまうと成り立たなかったと思うし、一人一人の存在がすごく大切な気がしました。学年皆で行くことで色々と自分のためになったことが多かったです。また普段、教科書や資料集で眺めている建造物や大仏などを生で見ることができて、普段の授業とは違った新鮮な感じがしました。

《3B 青木一樹君の感想》

様々な人から寺の説明を聞いて、長い歴史を経て我々の世代に伝えられて来たので、これからは我々が後世へ伝えていかなければならないと思いました。そして、旅館やホテルでは自分達のために多くの方が気を利かせて働いてくれたことに感謝したいです。雨の中服をふいてくださったり、おいしい食事を用意してくださったりしたスタッフの方々のおかげで旅行が成り立つのだと実感しました。また先生方や友人が助けてくれたことも忘れないようにしたいです。



2年生 有度地区青少年健全育成 推進大会で意見発表

11月18日（日）清水第七中学校の体育館において上記の大会が開催され本校からは代表として久保山恵未さん、西ヶ谷彩奈さん、八木梨花さんが参加しました。3人は、会場一杯の聴衆を前に、「私達の福祉活動～夏と冬のお便りカード作りと施設訪問」というタイトルで、堂々と意見発表を行いました。

《2B 久保山恵未さんの感想》

私はこの大会に参加することで大きな喜びを感じることができました。きっとそれは、今までにカードをお届けしたおじいさん・おばあさんの喜んでる顔を思い出したからだと思います。でも、私はこの大会を終えた後、私が喜びを届けていたのではなく、おじいさん・おばあさんが私に喜びをくれていたのだと気付きました。私はこのことに感謝するためにも、これからも小さな私達の活動をずっと続けていきたいと思っています。

《2A 西ヶ谷彩奈さんの感想》

この発表は私が今までにやってきたボランティアを振り返るきっかけにもなりました。施設訪問では、お年寄りの方が本当に喜んでくれたのか、また、もっと楽しんでもらえるようなことは何かないかとも考えました。カード作りは、実際に今、宗教の授業でやっているの、1つ1つ心を込めて作っていかうと思っています。

《2A 八木梨花さんの発表》

今年の夏は4カ所の施設を訪問しました。訪問に行った後、利用者の方からお礼のお手紙をいただいたのはとても嬉しかったです。忘れてはいけないのは、お年寄りの方も私達の気持ちに応えようと思ってくださっていることだと思います。もしかしたら、ダンスはあまり見たくなかったかもしれない。でも、ダンスをしようと思った気持ちに「ありがとう」と言ってくださっているのかもしれない。そして気持ちを伝えようとして手紙をくださった。喜びの輪というものは、こうやってつながっているのだ、と思えるようになりました。これからも多くの友達を誘って、この輪を拡げていきたいと思っています。



1年生 カレッジステージに向けて

4-4-4制の導入・上智大学との教育提携に伴い、中学1年では計画的に進路指導をしています。

まず、昨年7月18日に中学1年全員で上智大学を訪問しました。キャンパスを一緒に巡って大学の説明をしてくれた大学生に「何年生ですか?」と尋ねられたので、「中学1年生です」と答えると、「もう進路指導が始まっているんですね」と言われました。確かに中1から大学訪問を計画するのは、一般的には早いかもしれませんが、本校では、中学3年時にカレッジステージが始まり、ソフ

ティア・エグゼ・フロンティアの3コースに分かれます。それに備えて、学年全体で、ベネッセの「マナビジョン・適職・適学チェック」などの進路指導のツールなどを利用して、10月22日～11月12日のロングホームルーム4回を使って進路指導を実施しました。様々な職種の人々のインタビューもDVDで視聴しました。そして、11月19日、これまでの学習をまとめて「未来の自分探し」の作文を書きました。これらのワークシートや作文は1冊のファイルに記録して保存し、自分の考え方の変化が分かるようにしました。こういった活動を基に、周りから見た自分のイメージを保護者の方々、友達からも答えてもらい、自分の良い所を知ってもらうことにも取り組みました。

生徒から感想：「自分では気づかない自分の性格があるのだなと思った」「自分は、意外にも頑固だと思った」「友達はこんなふうにいるなんて、とても驚いた」「自分のことをこんなに見てくれていたことをとても嬉しく思った」「友達のいいところも見つけて、それを尊敬したい」「自分より、父母の方が私自身のことをよくわかっているなと思いました」など様々な感想がありました。

冬休みには社会科より、「身近にいる方々にそれぞれの仕事に関して、直接インタビューを行う」という課題が出されました。その結果、仕事の魅力や苦勞についての貴重なアドバイスを頂くことができました。今、その体験を一人一人発表しています。1月中旬からは、これらの活動と、今までの学習・生活面を踏まえて、生徒と担任との個人面談を行い、生徒の夢が叶うよう学年全体で努力しています。

まず自分がどのような人間なのかを知る。そのために、他人からのアドバイスを謙虚に受けとめる。そして、自分の目標に向かって日々努力できる力を、この進路指導を通して、培っていききたいと思っています。

クリスマス会

12月21日に小学校クリスマス会が行われました。4年生のオペレッタと、6年生によるクリスマスページェントの上演。5年生は裏方として上演を支えました。

オペレッタの演目は「アリババと40人のとろく」です。練習から上演まで、児童の作文を通して追っていきます。

～練習期間の様子～

「声を大きくするための呼吸の練習をしました。私は家でも、呼吸の練習をしました。」

「練習が進むと、だんだん、けんかが多くなってきましたが、練習が大変で、けんかをしているひまもありませんでした。」

～本番の日の朝～

「朝からどきどきしていました。私は、イエス様のお祝いの日、がんばって練習したオペレッタをお客さんに見せられるのが、とてもうれしいです。」

～本番直前～

「本番前、すごく緊張していました。でも、周りの友達がリラックスさせてくれました。一中略一歌が始まると今度は、励ましてくれた何人かが緊張していました。今度は私が励ましてあげようと思いました。」

～本番中～

「本番中何を考え、どんな感情を持っていたのか、まったく覚えていません。」

「時間があっという間に過ぎました。」

～本番を終えて～

「初めにやりたかった役とは違ったけれど、この役になれて、私は恵まれていると思いました。この役になれて、よいメンバーに囲まれて、とってもうれしかったです。」

「友情を深め、思い出に残るクリスマス会でした。今年最高のプレゼントをくれた友達に感謝したいです。」



後半は6年生によるページェントです。

11月になるとイエス誕生の場面を聖書で学習した後で、ページェントの準備にかかります。

今年は、権力の座につくヘロデ王ではなく、貧しく、慎ましい生活する中で、本当の幸せを運んで来られるお方を待つ羊飼いを中心にページェントをすすめました。



救い主イエスの誕生を告げる天使たちと、幸せと喜びを探し当てた村人と東方の3人の博士たち、そしてこの劇をつなぐナレーターが心を一つにし、日頃の児童会活動で行うハッピーランチの愛の献金をもって、小学生でもできる人々へと愛の心の発信を行い、イエス・キリストの誕生をお祝いしました。せめてこの日だけでも、初心にかえり多くの方々の幸せのために光と喜びを運ぶクリスマスにしたいと思い、6年生全員が担当し集大成としました。

今年のクリスマス・プレゼントは、ベトナムのサレジアン・シスターズの訓練所の生徒の手作り「小さな民俗人形」でした。



有度地区青少年健全育成推進大会

昨年(2019年)の11月17日に、有度地区青少年健全育成推進大会が、清水第七中学校の体育館で行われました。有度地区にある小学校や中学校の児童や生徒が参加し、学習で学んだことや日常生活から感じたこと、考えたことなどを発表しました。

小学校からは、10名の3年生が代表となり、子供達が進んで取り組んでいる「あいさつ」について、考えたこと、思ったことを有度地区の方々に聞いていただきました。毎年児童会では「あいさつ」をもりあげるため、挨拶キャラクターを募集します。今年は「サレジオ戦隊 あいさつマン」という3年生の作品が選ばれました。



キャラクターの製作者は、みんなが楽しい気持ちになって、あいさつがあふれたらいいなと考えてデザインしたそうです。そこで次のようなことを発表しました。

あいさつは、心の通うすてきな言葉です。「おはようございます」「さようなら」「ありがとう」などの意味を伝え、みんなが温かな気持ちになれるように、進んであいさつをし、心豊かな学校にしたいという思いを発表しました。



ドポ・スコーラ

今年、成人式を迎えた卒業生がお正月に集った。皆の元気そうな顔を見てハッと気がついたことがあった。この学年が1年生の時に放課後の学童保育を4,5名で始めた。あれから15年、その当時は10名足らずで始めたドポ・スコーラも今は定期で来ている児童が50名以上にもなり、時代の趨勢を感じた。ドポ・スコーラはイタリア語で、「学校の後」という意味でサレジアン・シスターズの世界98ヶ国の学校にも数多く見られ、今は当たり前のようになっている。



さて、1～6年生まで一緒に学習したり、遊んだり、おやつを食べながらおしゃべりをしている姿を見ると、その中で今の横社会の学習で見えないものを多く発見することができる。ある時は言い争い、喧嘩をしても無茶をせず年齢相応に対処できる。下級生を思いやり、上級生としての自覚を持って関わられるようになってくる。1年生の時は、あんなに我が儘な振る舞いをして迷惑をかけていた子も少し大きくなると1,2年生の面倒を見ながら学習したり、遊んだりしている。児童の良さを発揮した家庭的な温かい雰囲気大切に育ててほしいと願う。



幼稚園

『感謝の日』

勤労感謝の日の前日、幼稚園でも日頃お世話になっている方々を招いて、感謝の気持ちを伝えました。



歌や愛情がたくさん詰まった手作りのプレゼントをお渡しすると、みんな笑って喜んでくれました。すると、子ども達も嬉しくなり、自然とお遊戯室は笑顔いっぱいになりました。



いつも、わたしたちのために、おいのりしてくださって、ありがとうございます！



ようちえんをたのしくしてくださって、ありがとうございます！



みんなが、ようちえんですごしやすいようにくださって、ありがとうございます！

当たり前で過ごしている毎日の中で、たくさんの方々のお陰で仲良く楽しく過ごす事ができることを改めて子ども達と感じました。「いつもありがとう！」と言うと相手は笑顔で喜んでくれ、子ども達は『ありがとう』と感謝の気持ちを素直に伝える大切さを知りました。



バスのおじさんたち、いつもあんぜんうんでん、ありがとうございます！

『クリスマス会』

～つぼみ組のクリスマス～

11月に入るとクリスマスの準備が始まります。まず最初は「クリスマスは誰の誕生日ですか？」の質問からです。ほとんどの子どもは「自分の誕生日」と答えます。イエス様の誕生日とわかった頃、徳の花も始まります。徳の花は目に見えない花で、善い事をすると天国に枯れない美しい花が咲く事を説明しました。けれど…教師が「今日の徳の花は…」と話し出すとなぜか「チューリップ！」という声が…。11月末にチューリップの球根を植えたイメージが強く残っていたのでしょうか。

そんな騒動？の中、クリスマス会で踊るダンスの練習も始まりました。曲は「きけよ、きけよ空に」。床に貼られた自分の名前を確認し、立つ位置を覚えるのも一仕事。12月に入りマリアンホールでの練習になると行くだけで片道15分！練習時間は5分…。歩くだけで疲れてしまうつぼみ組さんでした。イエス様のお誕生をお祝いしようとする気持ちが盛りあがってきた頃には、もうクリスマス会当日。可愛い衣装に身を包み、友達と手をつないで踊るところも大成功！！なぜイエス様のお誕生を世界中で祝うのかはまだ分からない子ども達ですが、イエス様の為がんばると、サンタさんからプレゼントがもらえるという事だけは理解できた初めてのクリスマス会でした。



つぼみさん おつかれさま！

『もちつきたいかい』

今年も1月26日にもちつき大会が行われました。青い空に風花が舞うほど冷たい空気の中、大きな臼の中でホクホクと湯気が上がるもちもちのお餅をペタン！！お手伝いのお父さんと一緒に杵を持って「うんとこしょっ！どっこいしょっ！！」と大きな声をあげながら力一杯お餅をつきました。友だちのつく様子を見たり、実際にやってみて「おもしろい！」「まだやりたいよ！！」と子どもたちも大喜びでした。



つきあがったお餅は、お母さんたちに小さく丸めてもらい、いただきました。黄粉味・海苔醤油…やわらかお餅のおいしさにムシャムシャ、もぐもぐ！おいしさにおかわりが止まらない子もいましたよ。

迎えにきた家族の方にも食べていただき、大盛況のもちつき大会となりました。



きなこあじ
くださ〜！

おもち
さいこ〜！



※今年は父親の会「ダディーズ」主催で行われた夏祭りの収益から、もちつき機・ホットプレートを購入させていただきました！ありがとうございました！！

父母の会活動

父母の会 副会長 萩原 滋昭

日頃は、父母の会へお力添えを頂き心より感謝申し上げます。また、私の2人の子供が小学時よりお世話になり、今に至る事をとても悦しく想います。

私は長女が小学3年生の時に、パパズの焼きそばをお手伝いさせて頂き、その後中学入学時に、役員の仕事の仰せ付かりました。5年半、荒木先生を中心とした教職員の皆様と事務局の方々の協力や、シスター方の温かい支援を頂きながら責務を果して参りました。そして、良い仲間恵まれた事に感謝し、彼らを誇りに想います。志を同じくする彼らと活動するうちに、自分と異った考えを持つ他人が居る環境にこそ温かさや貴さが溢れていると想う様になり、その人間同士が真剣に心を通わせる中に「本物の愛」がある事を学びました。

皆様も過去の経験から、共同生活をするに「差別や偏見が生じる」と実感された事があると想います。その時に大切なのは、譬え人の心を知る事がどれ程難しいと知っていても、必ず相手を知る事は出来ると信じ、決して心の通い合いを断念する事無く、想い続ける事ではないでしょうか。なぜなら、その先には「真の優しさがある」と想えると同時に、ドンボスコの教えとする「愛」に通じるからです。

サレジオ学園は単に教育を授ける場ではなく、人と人が、人と社会が結び付く為の皆の夢と想いの詰められた宝箱なのです。この宝箱の中に居る子供達の為に、私達父母の会は「愛と正義と平等」の精神の下、父母が一丸と成って「学園に寄り添う存在」の維持に少しでも努めて頂きますと幸いです。

最後に、サレジオ学園の躍進を願い、皆様へ幸多かれと祈ります。



同窓会 総会バス旅行

同窓会 会長 曾根 幹子

同窓会の総会は、総会パーティとバス旅行を1年毎に交互に開催しています。

24年度はバス旅行の年にあたり新しく建て直された山中湖の修道院と富士のマリア像を訪ねました。

10月20日、少しお天気が心配でしたが、バス2台総勢64名で出発しました。富士マリア像に近づくとつれ、雲がすごいスピードで流れて去り、到着する頃には抜けるような青空となりました。ほとんどの参加者が卒業以来のマリア像です。学生の頃にはバス駐車場から楽々と歩けたはずの坂道が、やけに遠く感じられ、過ぎ去った年月を実感せずにはいられなかった(笑)ようです。マリア像は40年以上も経っているとは思えないほど、昔と変わらずに気高く清いお姿で感動しました。聞けば、ボランティアの方々が定期的にお掃除してくださっているとのこと。頭が下がります。

修道院では、聖堂で院長様のお話を伺い、お祈りを捧げた後、皆、童心に戻って敷地内の栗拾いに夢中になりました。写真撮影の時は寒さに震えたりもしましたが、バスの中は笑い声で溢れ、楽しい一日を過ごすことができました。また、23年度より始めた還暦の同窓生の無料ご招待も、大変喜んで下さり、今後も続けていきたいと思えます。

